

# 家畜衛生情報

香 川 県 畜 産 課  
 TEL(087)832-3426~8 FAX(087)806-0204  
 香川県東部家畜保健衛生所  
 TEL(087)898-1121 FAX(087)898-9558  
 香川県西部家畜保健衛生所  
 TEL(0877)62-0020 FAX(0877)62-3299

## 「飼養衛生管理基準」の改正について

家畜伝染病予防法では家畜の伝染性疾病の発生を予防するため、日頃の飼養管理において所有者が遵守すべき基準を農林水産省令で定めています。この「飼養衛生管理基準」が、近年の新たな知見や社会的要請を踏まえて、平成29年2月1日に改正されました。

改正点の概要は以下のとおりです。

- ① 豚及びいのししに食品循環資源を原材料とする飼料を利用するにあたって、原材料の詳細及び処理方法が確認できない事例が確認されたため、生肉が含まれる可能性がある飼料の加熱処理を規定。  
(当該飼料が生肉を含み、又は含む可能性があるときは、事前に摂氏70℃以上で30分間以上又は摂氏80℃以上で3分間以上の加熱処理が行われたものを用いること)
- ② 畜舎に侵入した野生動物による病原体伝播の可能性が確認されたため、現行の給餌施設等への野生動物排せつ物の侵入防止の規定に加え、家畜の死体の保管場所への野生動物の侵入防止を規定。  
(家畜の死体を保管する場合には、その保管場所への野生動物の侵入を防止するための措置を講ずること)
- ③ と畜場やふん尿処理施設に持ち込まれる家畜の死体や排せつ物による病原体伝播の可能性が確認されたため、家畜の死体及び排せつ物を移動する場合の適切な措置を規定。(家畜の死体又は排せつ物を移動させる場合には、漏出が生じないようにすること)

また、本改正に合わせて、「定期報告書」の飼養衛生管理基準の遵守状況の様式も変更されました。下記の期限までに家畜保健衛生所職員が出向き説明するとともに、新しい様式をお渡ししますので、提出についてよろしくお願ひします。

提出期限

牛、豚、馬、山羊など：4月15日まで

鶏など：6月15日まで

### 疾病情報

## 家畜伝染病・伝染性疾病発生状況(近県)

疾病名	畜種	発生場所	発生時期	発生戸数	発生頭羽群数
ヨネ病(法定)	牛	島根県、高知県	H28.9月~10月	2	3
牛白血病(届出)	牛	兵庫県、岡山県、広島県、鳥取県、島根県、山口県、愛媛県、徳島県、香川県	H28.9月~10月	43	50
牛ウイルス性下痢粘膜病(届出)	牛	兵庫県、鳥取県、島根県、香川県	H28.9月~10月	6	7
破傷風(届出)	牛	岡山県	H28.9月	1	1
牛サルモネラ症(届出)	牛	島根県	H28.10月	1	1
豚丹毒(届出)	豚	広島県、愛媛県、徳島県、香川県	H28.9月~10月	11	21
豚繁殖・呼吸障害症候群 PRRS(届出)	豚	徳島県	H28.9月~10月	2	4
ロイコチゾーン病(届出)	鶏	鳥取県、山口県	H28.10月	2	5
チョーク病(届出)	蜜蜂	広島県	H28.9月	1	2
レプトスピラ症(届出)	犬	鳥取県	H28.9月	1	1

## 肥育素牛導入時になぜビタミン給与が必要か？

(平成28年度 牛疾病特殊講習会から)

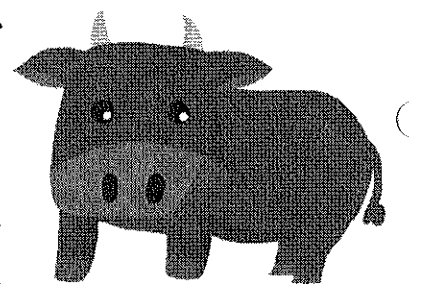
県外での調査ですが、肥育素牛として導入した和牛子牛の血中ビタミンA濃度を調べたところ、50～200IU/dlと大きくバラツキがありました。この時期の標準値は100～120IU/dlと言われています。なぜ子牛の段階で、血中ビタミンA濃度が低下するのでしょうか？

原因のひとつは、育成時期の濃厚飼料多給です。濃厚飼料多給によって、ルーメン（第一胃）の働きが悪くなるため、栄養吸収が悪くなり、血中ビタミンA濃度の低下を招きます。（濃厚飼料多給がルーメンの働きを悪くするメカニズムは、衛生情報8月号に書いているので参考にしてください。）

子牛の濃厚飼料多給には、もうひとつ大きな問題があります。それは、尿石症になりやすいということです。濃厚飼料の中の糟糠（そうこう）類（フスマ、米ヌカ等）にはリンが多く含まれており、リン過剰が尿石を招きます。余談ですが、子牛の尿石症を考えるとときには、濃厚飼料のタンパク質と炭水化物のバランスも大切です。

一般的に、牛はストレスを受けると、ビタミンAを消費します。例えば、輸送のストレス、特に冬期間の長距離輸送は、血中ビタミンA濃度を大きく低下させます。対策として、実験的に保温ジャケットを着用すると、悪影響が低減しました。

これらの理由で、肥育導入時には、十分なビタミンの補給が必要です。目安は、ビタミンAとして100～200万IU/頭です。導入時のビタミン補給は、導入時点でのバラツキを補正すると共に、導入後の環境変化や群管理が原因のストレスによる免疫機能低下を防ぐ可能性もあります。



## アカバネウイルスの関与が疑われる豚の異常産について

(家畜衛生研修会（病性鑑定：ウイルス部門）より)

アカバネウイルスは牛の異常産（流産や奇形）の原因とされていたが、平成27年10月から翌年にかけて、佐賀県と福岡県で本ウイルスの関与を疑う豚の異常産が確認された事例について紹介します。

### ○佐賀県

母豚88頭飼育の一貫経営農場で10月と11月に3頭の母豚が流産し、うち一頭の母豚とその胎児を剖検した。胎児には、頭部腫脹、大脳欠損、小脳矮小化、水頭症、前肢のナックリング、脊椎湾曲などの体形異常が見られた。母子ともにアカバネウイルス遺伝子陽性、抗体陽性、分離陰性であった。

牛のアカバネ病発生予察（6月8月9月11月採材）で、8月から11月にかけて複数の農場で抗体の陽転が見られ、ウイルスが分離された。この分離ウイルスと豚の症例の遺伝子の相同性が高かった。

豚の農場で流行状況調査を実施したところ、22農場60頭で抗体陽性であった。

### ○福岡県

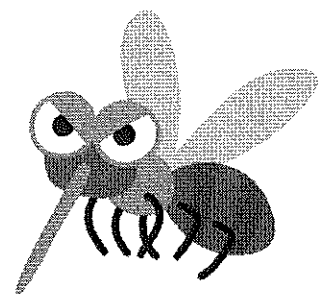
母豚50頭飼育の一貫経営農場で12月と1月に母豚3頭が白子、前肢拘縮豚、遊泳運動を示す虚弱豚などを娩出した。産子9頭の剖検をしたところ、前肢の拘縮、脊柱湾曲、大脳欠損、小脳低形成などが見られた。アカバネウイルス抗体陽性個体があった。ウイルス分離は陰性であった。母豚及び同居育成豚も抗体陽性であった。同地域の養豚農場2戸4頭もアカバネ抗体陽性、同時期に牛でも抗体陽性が確認された。

○上記のような異常がありましたら、家畜保健衛生所まで連絡を下さい。

### ★ポイント★

アカバネ病：ウシヌカカなどの節足動物が媒介する季節性のウイルス病。牛に異常産や非化膿性脳炎を引き起こす。牛では届出伝染病。

豚の感染報告：平成23年、広島県で本国初の症例報告。以降九州地方で複数の発生疑い報告有り。



## 高病原性鳥インフルエンザウイルスと身近な野鳥について (平成28年度鶏疾病特殊講習会より)

今冬は全国で高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）が散発しています。疫学的に渡り鳥がウイルスを運んでくるとされていますが、鶏舎内には入らないため、身近な野鳥や野生動物が鶏舎に運んでいると考えられています。そこで今回はH5N1亜型ウイルスの身近な野鳥（カモ、スズメ、ハト）への感染実験で示唆された内容を紹介いたします。

### ①カモ

ウイルスはカモ類を死亡させることがある一方で、感染しても症状を示さずに、一定期間ウイルスを排泄する個体が存在します。また、水禽の羽の上皮細胞でウイルスが増殖することが示唆されています。羽は脱落し、風で運ばれることもあるため注意が必要です。

### ②スズメ

ウイルスに感受性が高く、感染時の死亡率も高くなります。また、鶏より死亡までの生存期間が長く、死亡前日まで活発に活動するため、鶏に対する致死量のウイルスが排泄されます。特に口からのウイルス排泄が多いため、鶏舎の飲用水や飼料などの媒体を介したウイルス伝播に注意が必要です。

### ③ハト

健康なハトにウイルスを接種した場合、全羽が症状を示しませんでした。また、感染ハトからのウイルス排泄（量および期間）は極めて限定的です。



以上のように、身近な野鳥もHPAIの感染源になるため、日頃より飼養衛生管理には配慮されていると思いますが、より一層の徹底をお願いします。

## 豚コレラ及びアフリカ豚コレラについて (平成28年度海外悪性伝染病特殊講習会より)

豚コレラやアフリカ豚コレラは、発生国に経済的被害を与えるおそれのある家畜の国際重要伝染病であり、我が国では家畜伝染病（法定）に指定されています。

どちらも伝染力の強い熱性疾患であり、豚コレラという名称が共通していますが、以下の表のとおり原因となるウイルスが違い、症状等も異なります。

豚コレラは国内では、

豚コレラとアフリカ豚コレラの相違点

平成19年4月の清浄化以降発生はありませんが、近隣諸国で発生しており、特に韓国では昨年6月と9月に発生しています。

また、アフリカ豚コレラはこれまで国内やアジアでの発生はないものの、欧州各地への伝播は国際線船舶の残飯を養豚場で使用した

	豚コレラ	アフリカ豚コレラ
原因ウイルス	フラビウイルス科ペステウイルス属	アスファウイルス科アスファウイルス属
宿主	豚、いのしし	同左
発生地域	欧州、アジア、アフリカ、南米の一部	アフリカ、欧州の一部（ロシア及び周辺国、東欧）
特徴・症状	強い伝染力と高い致死率が特徴 急性型～慢性型 急性型：高熱、食欲不振、元気消失、神経症状（運動失調、後軀麻痺）、紫斑を示し短期間で死亡 慢性型：一旦回復するが、再び症状を呈し、削瘦後死亡	発熱や全身の出血性病変と高い致死率が特徴 豚コレラに酷似するがより病原性は強い傾向 甚急性型～不顕性型 甚急性型：1週間以内の急死 急性型：1週間前後の経過で死亡 亜急性型：2、3週間程度の経過で死亡 慢性型：1か月程度の経過で生存、又は再び急性症状を示して死亡 不顕性：以上の臨床症状を示さず感染源になる
感染経路	感染動物との接触、飛沫感染	感染動物との接触、ダニの吸血、感染動物の生肉や非加熱加工品からの汚染等
ワクチン	有（国内の流通はない）	無
防疫措置	発生農場での殺処分等	同左

ことが原因であると判明しており、国の専門官によると「貿易活動が盛んな現在、どこで発生してもおかしくなく、特に中国へ伝播すればコントロールが難しくなると思われるので、口蹄疫と同程度の混乱が生じるのではないか」とのことでした。

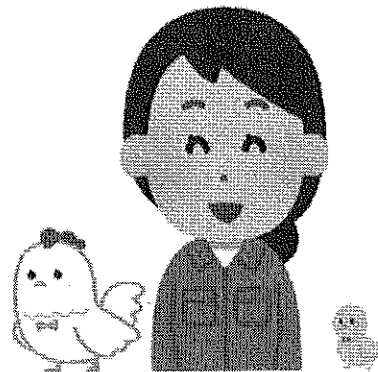
これらのことから、口蹄疫への対策も含めて、畜産関係者の海外渡航の自粛と豚飼養農場での飼養衛生管理基準の遵守をお願いします。

## 新人だより

はじめまして。平成28年度採用の西部家畜保健衛生所の川江早矢香と申します。今回、新人だよりを書く機会をいただきましたので、自己紹介をさせていただきます。私は鳥取の大学を卒業してから、岡山県の津山市という、ホルモンうどんが有名な地域に数年間住んでいました。津山では人や環境に恵まれて楽しく過ごしていたのですが、香川生まれの私にとってはとにかく寒くてしょうがなく、毎年春が来るのが待ち遠しかったです。昨年3月に香川県に帰ってきてから、温かい気候と美味しいうどんに癒されています。

丸亀市出身ですので、西部家畜保健衛生所の管内は慣れ親しんだ地元です。しかし、恥ずかしながら、農場を巡回するなかで、今まで行ったことのない場所や道が多くあることに驚かされています。香川県をもっとよく知るために、最近は休日に趣味の温泉めぐりも兼ねて、家族といろいろな場所を巡っています。

家畜保健衛生所の職員となりもうすぐ1年が経とうとしています。香川県の畜産に携われることを、日々嬉しく思っています。経験の乏しい未熟者の私ですが、これから少しでもみなさまのお役に立てるよう、精進していきたいです。



### <お知らせ>

#### ○特定疾病防止事業等に係る予防接種手数料徴収方法の変更について

家畜（牛・豚）の予防接種手数料については、会計事務処理の適正化のため、「平成29年3月から月末締め翌月末引落とし又は振込み」とします。

お問い合わせ先：公益社団法人香川県畜産協会 業務部 久利・伊賀 TEL：087-825-0284

#### ○牛ポツリヌス症の発生状況

今年度も、牛ポツリヌス症が高松市の1農家で発生しました。近年では、毎年のように発生がみられます。カラス対策や牛舎の定期的な消毒に努めてください。また、ワクチン接種の検討もお願いします。

#### ○アカバネウイルスなどの県内の侵入状況

今年度、県内のサーベイランス検査でアカバネ病、イバラキ病の抗体が陽性と確認されました。今後も引き続きアカバネ病を含む3種混合ワクチンの接種をお願いします。加えて、イバラキ病のワクチン接種の検討もお願いします。

#### ○平成28年度畜産研究談話会

日時：平成29年2月28日（火）13：30～15：30

場所：香川県畜産試験場 本館2階会議室

内容：①突発的な騒音（花火大会の騒音）が乳用牛の乳量に及ぼす影響

②畜産農家を支援する繁殖管理支援システムの開発

③香川県特産小麦「さぬきの夢2009」ふすま投与による肉用讃岐コーチンの特徴づけ

④トマト給与による種雄豚の夏期繁殖性向上試験